



学校周辺の風景

中学校における眺望教育の実践

増山 秀樹

私の勤務校である多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校は東京都多摩市聖ヶ丘の丘陵上に位置するため、周囲の展望に恵まれている。校舎裏には連光寺一等三角点があり、標高は161.71mである。三角点は八坂神社境内に位置し、多摩市内最高地点でもある。周辺部は尾根幹線道路の建設や京王線若葉台駅から続く宅地開発の影響を受けてかなり開発が進んでいるが、三角点周辺部だけは宅地の中に取り残された緑の小島となっている。かつて国府のあった府中市あたりから眺めると横に長く広がって見えるため、古くから「多摩の横山」と呼ばれていた。かつてこの一帯は横山牧と呼ばれる馬の放牧地であり、牧を管理する小野氏が平安末期以降勢力を誇っていた。本校では中学1年生を生徒を対象に、「学校から何が見えるか」という授業を行っている。国土地理院発行の地図を片手に、東西南北それぞれの対象を確認しながら、学校の位置を再確認する試みである。長い入試準備期間を経て入学した生徒にとって、外に出る事は楽しいイベントの一つになっているようで、楽しそうに作業に取り組む姿が見られる。毎年入学当初の4月に実施するため、比較的天気の良い日であっても展望のきかないこともあるが、赤城山や南アルプスなどが見えると歓声を上げる者も多い。実際どのような山が見えるのか、実例を挙げて確認してみたい。

多摩市からの山岳展望については、市内在住者による「Bird's View」というサイトがあり、比較的詳しい説明がある。いくつかある撮影場所の一つとして、学校横に通る「坂浜聖ヶ丘橋」が登場するが、西方への展望が開けるため、絶好の視認ポイントである。まず南西方には大山をはじめとする丹沢山塊が大きくそびえ、蛭ヶ岳の南方に富士山が顔をのぞかせている。また、道志山塊と南大菩薩との間の鞍部には遠く塩見岳の姿を確認することができる。そこから北方に視点を移すと奥多摩、奥秩父、奥武蔵の山が広がる。正三角形をした武甲山は、天候が多少悪くても比較的よく見える。そのまま北方に目を転じると、次第に山並みは低くなって、関東平野に落ちていくが、冬の天気の良い日には、北方に距離の近い赤城山が見える。また、その西に子持山が見えることもある。普段北方で確認出来る山はこれくらいであるが、たまに空が澄み切った日には男体山や日光白根山が見えることもある。多摩市との距離は120km余りなので、朝方でないと難しいが、生徒には早朝学校に詰めかけて、確認しようとする者もいる。更に遠方の谷川岳は、長らく確認できなかったが、ここ2年ほどの間に3回確認することが出来た。多摩市からの距離は150km余りだが、間に埼玉県西部の都

市を挟むため視認が難しく、挑戦しても見えない日が多い。しかし、昨年低気圧が通過した翌日、北方に白い山の連なりを発見し、谷川岳であることを確認できた。今年も挑戦した結果、昨年よりも鮮明な姿を確認することが出来た。



校舎屋上から北方の眺望（遠くの白い山が谷川連峰）



校舎5階からの富士山

かつて木暮理太郎は東京が望岳都であると述べたが、建物の高層化が進んだ現在では100kmを越える山を確認することは難しい。深田久弥が目を凝らして見ようとした六郷土手からの白根三山も川沿いに立つマンション群のために見えなくなってしまった。遠くの山が見える、ということは立地条件や環境問題への考えを深める一方、心的安心感を得る効果もある。古代の都の多くが盆地に作られ、鬼門や鎮守という宗教的装置がよく視認しうる山に置かれていたことは、それを裏付けるものであろう。何気ない生活の中で「山に見守られている」という感覚は、安心感を与え、子どもの成長にも大きな役割を果たすと考えている。そうした心のルーツを求める試みがこの授業にも込められているのである。（なお筆者はこの4月に国分寺市の早稲田実業学校に異動したため、眺望授業も出来なくなったが、異動先でも何らかの機会をとらえて続けていきたいと思っている）

\*\*\*\*\*

コラム 大雪山が高くなる！

北海道全域 離島を除く 約1万5千点の標高が、現在の測量技術に合致した新しい成果値に改定され、その運用が5月1日より開始されるという発表がありました。

新しい標高成果値は、電子基準点や水準点の標高成果と整合させた標高成果で平成15年十勝沖地震等の地殻変動や地盤沈

下等の影響を考慮しているとの事。

今回の改定で標高値が高くなる三角点では最大0.93m、標高値が低くなる三角点では最大1.58m変わります。したがって公表している「日本の山岳標高一覧-1003-」の標高も変わり、北海道最高峰の大雪山(旭岳)の標高は、2290mから2291mとなることになりました。(国土地理院のホームページより)

**行きましょう (4/20 予定が変更になりました)**

**2008年5月31(土) 場所:大菩薩南西部**

**集合:** JR 中央本線・塩山駅 北口 9:00

新宿 7:18 (あずさ 73 号) または 7:30 (あずさ 3 号) が便利です。

塩山からタクシーで上日川峠、できれば中日川峠まで上がります。ここから日川尾根を南下。源次郎岳、恩若ノ峰から下萩原を経て塩山に至ります。

ほぼ全コースが踏み跡程度からさらに藪となると思われますので、楽しく歩きましょう。

中日川～塩山: 約 5 時間

**地形図:** 1/2.5 万「大菩薩峠」「塩山」

**ポイント:** 中日川峠、1627.1 峰、下日川峠、分岐、源次郎岳、1050m 峰の先の小ピーク(直角に北西に曲がる) 恩若ノ峰、ミツ沢乗越 (担当: 北野)

**ご注意:** 参加予定者は必ず申し込んでください 090-3046-1189

**行ってきました (読図研修番外H仲ガ)**

**\*\*\* 奥武蔵・子の権現から前坂まで \*\*\***

**遠山元信**

当初山梨で行う筈の読図研修であったが、土砂崩れで林道が通れず 4 月の例会で予定を奥武蔵に変更、その結果一部会員に連絡が行き届かず今後に課題を残した。

さて当日は曇り空、午前 9 時に西武秩父線西吾野駅に集合。以前であったら電車からドッと降りるハイカーに溜息が出たものであるが、現在のポツポツと降りてくる姿に登山界の行く末が心配となる。戦前の第一次ハイキングブームの時に青春時代を過ごしたハイカーが、退職後に思い出したかのようにブームを巻き起こしていた登山、それが減少の一途を辿り奥武蔵にも現われているのだろうか。



コースは西吾野駅から山崎、森坂峠(山崎西方・標高点 442m 南側鞍部)、イモリ山(森坂峠南側の等高線 430m ピーク)、子の権現。ここから稜線伝いにスルギ(久々戸北側標高点 538m 東側鞍部)、四本松(吾野駅南西・三角点 522・1m)、前坂(吾野駅南側・標高点 419m 南西側鞍部先の等高線 440m 付近)を経て吾野駅に下山するコースに設定。これは一月に行われた吾野駅から前坂、大高山(吾野駅南東・標高点 493m)、天覚山(東吾野駅南東)、東吾野駅へのルートと前坂でドッキングするルートであるが、大高山、天覚山方面は一般的なハイキングルートに対して、今回のスルギから前坂までの間は僅かな踏み跡があるものの一般的なハイキングコースではない。常に稜線を意識して歩く場合は読図を少しでも怠ると完全に盲目状態に陥るか、または大きく誤る恐れが多分に考えられるコースである。そのため読図研修であるならば、本来は集団ではなく単独で歩きたいコースであり、特に等高線で表現できないピークが存在、地形の把握、歩いている方向の確認等を怠ることは危険に繋がります。今回我々は順副に推移したが、吾野駅に午後 4 時過ぎに下山、冬で

あれば完全に日の入り後の時間である。となると途中でトラブルが発生するとタイムリミットとの闘いになるため、我々とは逆の吾野から子の権現を目指すルートを薦めたい。

もう一つアマチュア無線であるが、対岸の関八州見晴らし台の頂上にある 439・24 メガの中継局を利用して、国立の自宅に居た今井さんと歩きながら三回交信した。この電波は埼玉はもちろんのこと、関東全域で受信できていた筈である。こんな機会を利用して普段から無線に慣れることをお勧めしたい。

参加者は、北野、鶴田(實)、鶴田(泰)と遠山の計四名。読図に自信が出てきたと言う鶴田(泰)を先頭に快進撃が続いた。

**例会の議事録**

**2008年4月2日(水) 19:00~20:10 於JAC集会室A**

**出席者10名**(北野、平野、遠山、近藤、鶴田(実)、鶴田(泰)片野、高橋、羽鳥、今井(順不同))

**内容:** 1. 4月20日予定の読図研修(大菩薩南西部)は林道崩落修復工事中のため、タクシーが利用できないため、5月31日(土曜日)に延期する。時間の変更はない。(北野) 2. 大菩薩方面の読図研修に代わり、埼玉県吾野方面で研修を行う。西武秩父線西吾野駅から、子の権現、522・1m 峰を経由して吾野駅のコースを予定する。時間等の詳細は別途連絡する。(遠山) 3. 地図の整理のリスト化が終わり、全図巾3192枚のリストを作った。なお現在、棚の移動にかかっている。後2,3回で完了する予定。リスト希望者は申し込みのこと(近藤)

終了後は「什番」にて懇親会(9名) 以上(文責今井)

**お知らせ**

**参加者は必ず事前の申込みを**

読図山行や行事への参加の際、必ず事前に担当者へ参加の旨申込をしてください。計画変更や当日の予定変更などの際、申込をされていない場合連絡できませんのでトラブルの元になります。

メーリングリスト登録者にはすでに連絡していますが、今号より AGC レポートは発行と同時にメーリングリストからダウンロードできるようにいたします。PDF ファイルを添付いたしますので、郵送費の節約と発行作業の簡略化にご協力ください。なお郵送不要という方でもまだ連絡を戴いていない方は平野まで連絡ください。又、既刊号は地理クラブのホームページからも見ることができます。(JAC のホームページから「同好会の活動」-「山岳地理クラブ」へお入りください。)

**次回の例会**

**日時 5月7日(水) 18:30 から 於:山岳会 ルーム**

**テーマ: 読図研修、ほか**

**例会終了後の懇親会も是非出席ください**

なお、同日 15:00 から地図整理を行います(図書管理委員会との打ち合わせを予定しています)

**編集後記**

> 旧版地図整理の過程で図名のよみが分からないものが多数ありましたが、おかげさまでほとんど判明いたしました。ご協力ありがとうございました。それにしても地名や人名のよみは難しいのが多いことをいままさらながら感じました。ちなみに皆さん、次の図名が幾つわかりますか 波切村(1/2 万浜崎近傍)、安食村(1/2 万佐倉)、左沢(1/5 万仙台)、愛子(1/2 万仙台) 鹿玉村(1/2 万浜松) 答えは次号に掲載いたします

AGC レポート vol-11 2008 年 4 月 30 日発行

発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4 日本山岳会 気付

TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441

編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com